

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-108786

(P2000-108786A)

(43) 公開日 平成12年4月18日 (2000. 4. 18)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

タームコード\* (参考)

B 6 0 R 1/08

B 6 0 R 1/08

Z 3 D 0 5 3

1/06

1/06

D

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平10-312650

(22) 出願日

平成10年9月30日 (1998. 9. 30)

(71) 出願人 598151245

柳川 吉治

東京都東久留米市本町 2-3-24-503号

(72) 発明者 柳川 吉治

東京都東久留米市本町 2-3-24-503号

Fターム(参考) 3D053 FF17 FF18 FF28 GG06 GG11

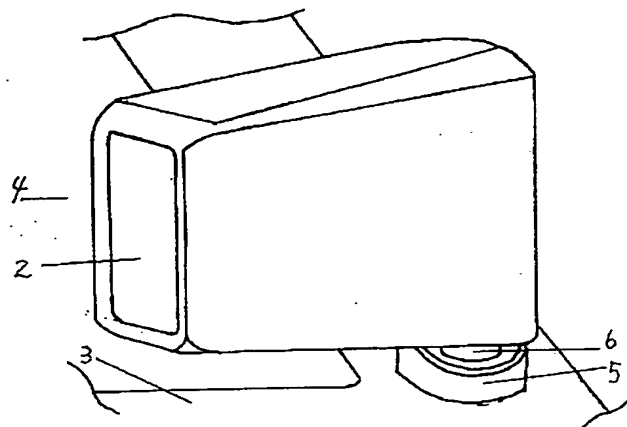
HH18 HH22 HH35

(54) 【発明の名称】 折り畳んだときに後方が見えるドアミラー

(57) 【要約】

【課題】 従来のドアミラーは、折り畳んで走行しなければならない時後方が見えないため事故につながり危険であったものを折り畳んだ状態でも後方を見ることの出来るバックミラーを提供する。

【解決手段】 従来のドアミラーに折り畳んだとき後方を向く面に鏡材を付けたドアミラーを車に装着する事により道路を走行中ドアミラーを折り畳む場面に出くわした時又、折り畳まなければ危険な時にも後方確認ができ安全な走行ができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 従来の自動車の運転席側、助手席側ドアミラーに折り畳んだとき後方を向いた面に鏡材をつけ折り畳んだ時に後方が見えるドアミラー。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、車のドアミラーを折り畳んだとき後方を向いた面に鏡材をつけ折り畳んだときでも後方確認ができるドアミラーに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、自動車のドアミラーは折り畳み可動する事が出来てこのドアミラーが開いた状態で後方反射視する事が出来る位置に鏡材が設けられていてその他の部分は非反射性のカバーが主であった又、カバーがメッキ等の反射性素材より成る物もあったがその面は後方を反射視できないくらいに湾曲していた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 これは、次のような欠点があった。

(イ) 狭い道路で対向車とすれ違うとき、人ごみの多い道路でドアミラーを折り畳んだ時には、後方が確認できなかった。

(ロ) 折り畳んだ時の走行は後方が見えないため事故を起こすのでわと不安であった。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】 自動車のドアミラーを折り畳んだ時後方を向いた面に鏡材を付け後方が見えるドアミラー。本発明は、以上のような構成より成るドアミラーである。

## 【0005】

【発明の実施の形態】 以下、実施の形態について説明する。

(イ) 従来のドアミラーは前後に折り畳むドアミラーが主でドアミラーは車の左右のボディーより垂直に出ているミラーステー (6) の上にドアミラー軸 (7) を固定し軸が回転することによりドアミラを前後に開閉させている。従来のドアミラーを後方に折り畳むと図 1～3 のようになり後方を向いたドアミラーに平面鏡材か凸面鏡材を用いた補助ミラー (2) を付けると従来のドアミラーを開いた時に見える可視範囲 (図 4) が折り畳むことにより出来る死角 (図 5) が図 6 に示すように無くなる。

(ロ) 従来のドアミラーが前方に折り畳むドアミラーの場合図 7 の様になり後方を向いたドアミラーに平面鏡材か凸面鏡材を用いた補助ミラー (2) を付けると図 8 に示す後方の死角 (図 5) が図 6 に示すように無くなる。

## 【0006】

【発明の効果】 ドアミラーを折り畳んだ時でも後方確認ができるので人込みや狭い道路での走行など他車とすれちがう際に歩行者や車との接触が避けられ事故が防げ安全である。

## 【図面の簡単な説明】

【図 1】 発明の先端側面を後方に折り畳み真後から見た図。

【図 2】 発明の先端側面を後方に折り畳み真上から見た図。

【図 3】 発明の先端側面を後方に折り畳み車の斜め後方より見た斜視図。

【図 4】 従来のドアミラーを開いた場合に見える範囲を斜線部分とする。

【図 5】 従来のドアミラーを折り畳むと後方は見えないうえ車内より目視にて後方を見た場合に見える範囲を斜線部分とする。

【図 6】 発明のドアミラーを折り畳み見える範囲を斜線部分とする。

【図 7】 発明のドアミラーを開いたときボディー側を向いた面が後方に向くよう折り畳み真上から見た図である。

【図 8】 発明のドアミラーを開いたときボディー側を向いた面が後方に向くよう折り畳み車の真後ろから見た図である。

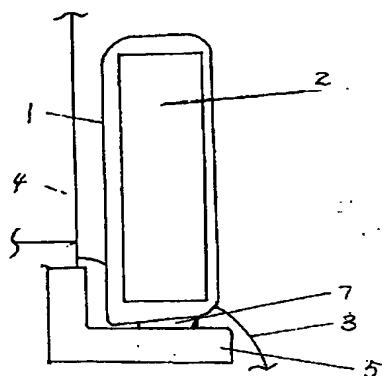
【図 9】 従来の多数有るドアミラーに発明のドアミラーを付け開いた状態で真後ろより見た図。

【図 10】 従来の多数有るドアミラーに発明のドアミラーを付け開いた状態で真後ろより見た図。

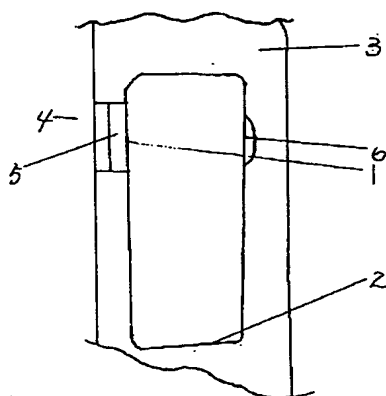
## 【符号の説明】

1	主ドアミラー
2	補助ミラー
3	車のボディー
4	車のガラス面
5	ドアミラーステー
6	ドアミラー軸
7	主ミラー可視範囲

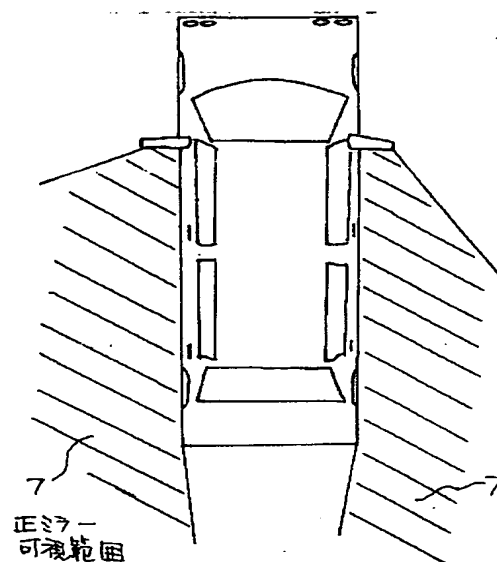
【図1】



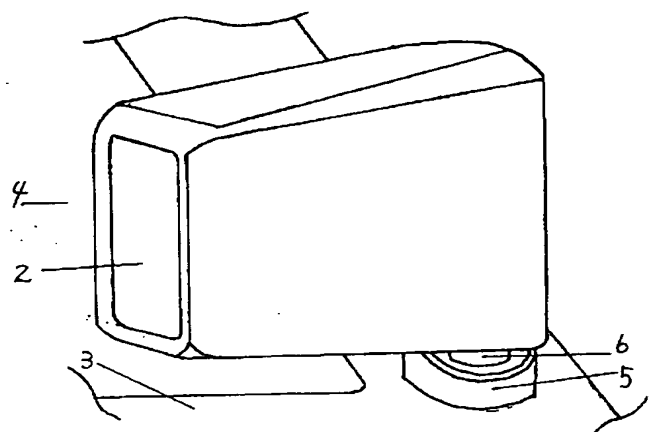
【図2】



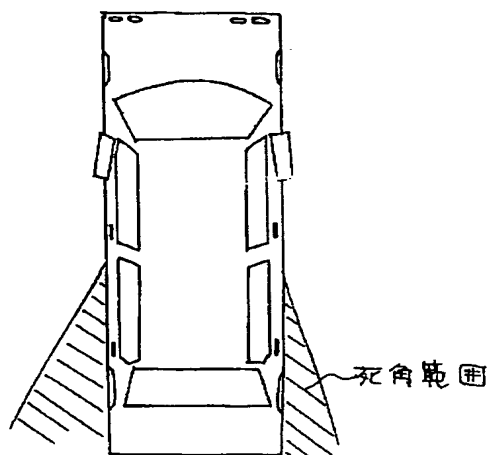
【図4】



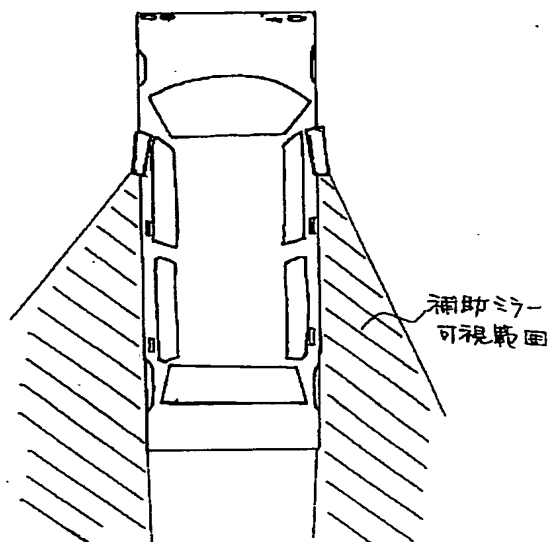
【図3】



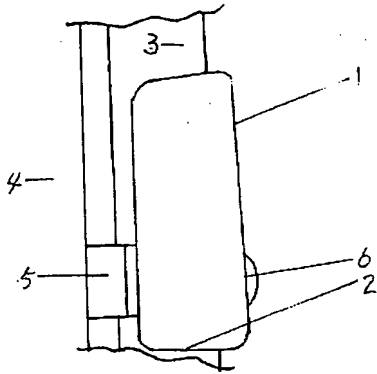
【図5】



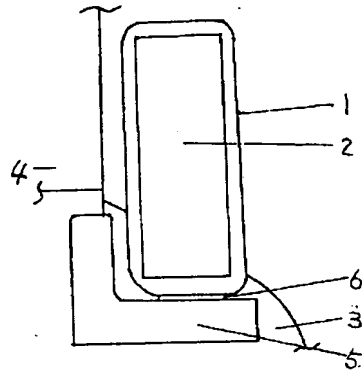
【図6】



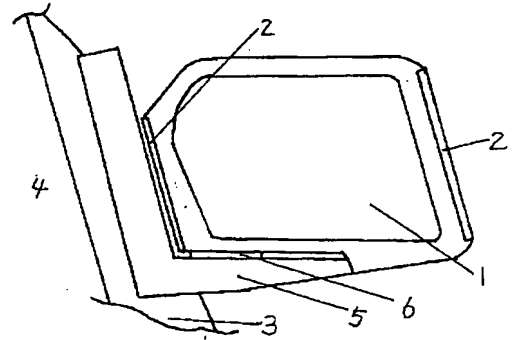
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

